

会 議 録

1 会議名

令和4年度第3回上越市社会教育委員・上越市立公民館運営審議会委員会議

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 令和5年度事業計画・予算案について（公開）

(2) 情報共有シートの取組について（公開）

(3) その他（公開）

3 開催日時

令和5年2月28日（火） 午前10時～11時30分

4 開催場所

上越市教育プラザ研修棟3階 大会議室

※オンライン会議と同時開催（会場参加とオンライン参加により実施）

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：（会場参加）石田浩久、茨木真、江村奈緒美、川上優子、小林榮、
小林英子、流石光信、高橋京子、土屋郁夫、保坂和彦、松井和代、
森田浩、渡邊恵美

（オンライン参加）鈴木重行、柳澤嘉孝、山川美香

・事務局：小嶋栄子社会教育課長、宮崎英紀参事、福山亮副課長、岩崎晃副課
長、関間哲也係長、村山幸仁係長、宮川真弓主任、加茂川真理主任、
増田健主任、岩片恵里奈主任

8 発言の内容（要旨）

(1) 開会

(2) 保坂委員長挨拶

(3) 議事

① 令和5年度事業計画・予算案について

— 資料No.1～3に基づき事務局説明 —

保坂委員長：事務局から説明があったように、事業計画・予算案が多岐にわたるが、皆さんからご意見・質問等を寄せていただきたい。

茨木委員：施設の改修や新たな公民館の建設のための設計があると思うが、これらの建設の際に、どのようなイメージのモノを作りたいのか、誰がどのような使い方をするのかをきちんと設計者に注文する作業が少し抜けているのではないかと感じる。改修や建設は、よいものができることは確かだが、ただよいものであればよいというだけでなく、実際に利用者が使いやすいよう、無駄にならないような注文を設計者に伝えないとせっかくかけた予算がもったいない。例えば、オーレンプラザについて、とてもきれいによくできている施設だが、公民館として住民がホールを使用しようとした時に使いやすいのか。どういう設備だと利用者が使いやすいのかをきちんと設計者に注文する必要がある。オーレンプラザのトイレは、便器の蓋が自動で開閉できる設定になっている。しかし、10年経過すると故障し、修理にお金がかかる。安くても使いやすいものもある。後の修繕のことを考えて故障した際に買替ではなく代替部品があり修繕できるものを設計しないと故障した際に多額の費用がかかってしまう。施設整備についてはそういうことも整理して作業をしていただけたらと思う。

保坂委員長：施設の管理をしていく上で、利用者に配慮することは大事な視点である。今後、事務局で改修等の際に考えていただきたい。

江村委員：二十歳を祝うつどいでメイドイン上越の品を記念品にするという話だが、とてもよいことだと思う。現在、どのようなものを考えているのか内容がわかれば教えていただきたい。

事務局：令和5年度の予算は、現在、議会審議中であり、次年度の契約になる。

メイドイン上越の品であり、とてもよいモノということだけここでお伝えし、詳細は控えさせていただきたい。

流石委員：中学校の部活動については、今後、地域に移行されていく。学校教育で行っていたものが社会教育になる。謙信KIDSプロジェクトは、小学生向けで中学生は入らない。学校から部活動がなくなることはあきらかで、中学生は地域に戻ることになる。部活動について、学校と地域との感覚がずれているようだ。社会教育でどうとらえていくか。学校は、国の方針で動くため、どこが動くかと言うと社会が受け入れるしかない。いろいろなことを考え、社会教育の方針の中にも今後組み込んでいかなくてはならないと思う。

事務局：先日、部活動の地域移行に関する4回目の推進委員会に出席した。昨年からは1年かけて学校教育課を中心に会議を行っている。スポーツ庁のスタートが早く、その後、文部科学省が動きだした。子どもたちが地域へ戻ってくるということから、社会教育課も会議に参加しており、土日の受け皿の必要性は感じている。現在、部活動に参加している子どもたちをまず受け入れるということが大前提に考えている。その後、受け皿があれば、他の活動も受け入れていく。来年度4月と11月に部活動を紹介するイベントを開催する。4月にスポーツが先行して行い、11月には、文化部も開催する予定である。ただ、指導者確保や経費の問題もある。基本は受益者負担であるが、国や県、市町村の財源でできる限り支援していきたい。

保坂委員長：現在、市の学校教育課を中心に会議が進められている。少しずつ明らかになっていくと思うが、社会教育としてもだまっているわけにはいかない問題である。

土屋委員：部活動について、審議している会議名を教えてください。会議録は公表されているのか。

事務局：会議名は、上越市部活動の地域移行に係る推進委員会である。会議は公

開しているが、作業部会による個別の検討については公開していない。会議録については、この推進委員会は運営事項を決定する会議ではない為、公開されていない。

森田委員：2点質問したい。1点目は、選挙について成人年齢が18歳に引き下げられ18歳の人も選挙権があるが、上越市では、投票率アップの取組を社会教育課で行っているのか。

2点目は、図書館について、先日、直江津図書館を利用したが、とても利用しやすく、予約、貸出期間の延長等がパソコンからでき、とてもよいと思った。社会教育の方針では、図書資料の充実とあり本の増冊もよいが、利用者の促進にも力をいれてはどうか。

事務局：1点目の選挙については、選挙管理委員会が担当しているが、高校に訪問するなど選挙の重要性等の啓発活動に取り組んでいる。2点目の図書館については、図書館では別の委員会があり、そこで委員に意見をいただき検討・運営しているため、この会議の議題とは別にさせていただいている。

高橋委員：このご時世、予算を増やすことは難しいとは思いますが、中郷区の片貝資料館では、常駐の管理人が1人いる。1人で来客者対応、電話対応、掃除等すべてこなしている。給料はもらっているが、重労働である。また、田んぼの真ん中にある建物であり、毎日多数の来客があればよいが、1日に数人しか来ない時もあり、防犯上の不安もあるので、複数人体制がとれないか。

事務局：片貝資料館は、文化行政課の担当となるが、生涯学習センターと併設されているということでの人員配置となっている。生涯学習センターは基本、施設を利用する人がカギの管理等行うことになっている。資料館の説明が必要であれば、学芸員がうかがって説明をすることもできるので人員を増やすことは現段階では考えていない。

土屋委員：ホームページを改良し、利用希望者がいつ行きたいか等を聞き取り、

その時間に学芸員が行く等の工夫をするとよいと思う。1人で賄うことが難しいのであれば何らかの方法を検討し、工夫していただきたい。

保坂委員長：工夫して、利用者も利用しやすくなるとよい。文化行政課と協議していただきたい。

小林英委員：生涯学習とは、小さい人から高齢の人までが基本になると思うが、今の社会教育は幼稚園・小中学生・高齢者等分かれている。何かつなげる方法はないか。

事務局：たしかに、今は、目的や対象年齢で分かれている。全体でとなると地域が行っているフェスティバルなどがあるが、地域が主体となる。第3次総合教育プランに基づき、目的や対象年齢を定めて、地域・家庭・学校と連携してやっていきたい。

② 情報共有シートの取組について

— 資料No4に基づき意見交換 —

茨木委員：公民館事業について、今年度も年度当初に1年間の予定表をもらったが、詳細が不明のものが3分の2ほどある。おもしろそうだと思う、担当者に連絡したところ8月末に決まると言われ、8月中旬に改めて連絡したところ、町内会に回覧で案内がされていた。町内会にしか案内がないことはもったいない。地域を対象にすることもよいが、情報は全市に出していただきたい。よい講座をやっているので参加者を増やせるよう広報上越に掲載したりしていただきたい。

事務局：年度当初の年間の予定表では、講師の手配・開催場所など様々なことを調整しないと決まらない部分が多いため、未定となってしまう。毎月ホームページに一覧に掲載しているので確認していただきたい。できればチラシも添付して掲載したいと思うが、チラシは開催する内容をまとめて掲載しているため、開催が終わったものから修正しお知らせするなど、やり方を考えていかななくてはならない。ご意見のあった効果的なお知らせの方法については、ホームページを見直しながら、今

後、どのようなことができるか考えていきたい。

土屋委員：インターネットが使いやすくなり、高齢者でもスマートフォンで検索している。上越市は全体的にホームページで情報が探しにくい。一覧がでてきても中身がわかりにくい。すみやかに情報を得られる手段を市全体で検討していただきたい。他市や市民のアイデアも参考にしていきたい。

事務局：公民館主事が事業のチラシや公民館だよりを一生懸命に作成しているので、ホームページへの掲載や、ホームページを利用できない人も手に取れるようオーレンプラザや直江津学びの交流館に地区公民館のチラシを置くなど、誰もが手に取れるようにできたらと考えている。また、SNSを活用するなど情報発信の充実も検討していきたい。

小林英委員：ホームページを見てくださと言われても、ホームページのどこをみればよいかわからない。入口がわからなく、入口でつまづくことがよくある。もっとわかりやすく、入口がすぐわかるような工夫をしていただきたい。

土屋委員：現在、自分でどういう情報がほしいかという質問に的確な答えがわかるチャットポットという技術もある。市の情報管理の人も詳しいと思う。そういう技術を社会教育や市全体で使えるような工夫をしていくと上越市の情報をもっと開かれていくと思う。

保坂委員長：社会教育委員として委員だけで情報交換や悩みなど意見交換できる場があるとよいと思う。来年度は、市が開催する会議後に社会教育委員だけでフリートークを開催できればと思う。

小林英委員：委員として集まっているが、皆さんが普段は何をしているかわからない。今後、新しく委員になる人も何をしてよいかわからないということもあるので情報共有することはよいことだと思う。

保坂委員長：来年度から委員だけでの情報共有もやっていきたい。

土屋委員：今日の会議もオンラインで参加の人がいるが、最近、文部科学省の会

議を、オンラインで傍聴できた。今日のような会議もオンラインで傍聴できるようになると、市民にも浸透し、意見をいただける。コロナ禍で世の中がかわり技術的にも進歩している。そういう技術を利用できるように検討していただきたい。Y o u T u b e を活用する方法もある。

事務局：今日の会議も公開できる会議ではあるが、ではどうやってその会議の情報を得るかという、先ほどの話と同じで上越市のホームページで総務管理課の会議一覧から検索することになる。どこから検索すればよいかわからないということは確かにある。文部科学省等の会議をオンラインで傍聴できるということだが、そのあたりの取扱いについては、担当部署と協議していきたい。

流石委員：先日のスポーツ推進課の部活動に関する会議は、一般の傍聴者は私1人だけであった。どこで会議の情報を知ったかという上越タイムスの記事であった。インターネットは年配の人は見ない。いくつかの手段で情報を提供しなければならない。興味がある人は、自ら情報を探すが、少し興味がある人や興味がない人たちが情報を目にするにはどうすればよいかを考えていかないといけないと思う。

江村委員：今日の会議でオンラインを取り入れての会議は4回目だと思うが、初めは、会場の選定や音声の聞こえの問題があった。今日はオンライン参加の人を含め、スクリーンに話をしている人が映っており素晴らしい。初めはわからないことでも、回数を重ねるごとによくなることがある。実施し、意見を言うことが大切であると思った。

③ その他

質疑なし

(4) 閉会

9 問合せ先

上越市教育委員会社会教育課

TEL : 025-545-9245 (内線 1260)

E-mail : shakaikyouiku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。